

- 2004年1月17日 深谷 孟延 氏 講演(東海市教育長,「教育界の正念場」) -

- ・ 背筋がびしっと伸びるような思いです。**有言実行の精神**で、明日から実践しなければと思いました。保護者や子どもにどんな顔で接しているか、見直したいと思います。
- ・ 終始、スリルとサスペンスに満たされていました。まさに、**時代の流れに沿った話**でした。断片的な情報と知識をつなぎ合わせ、知ったつもりでいる自分の至らなさを実感しました。わくわくして聞くことができました。これこそ「次元の違う世界にいる人」の話であるとも思いました。
- ・ ALTの小学校全校導入には、その発想に驚きました。さらに、その裏で「**日本文化**」という考えを持つことの大切さを初めて知りました。また、その財源確保にも興味を持ちました。

今が「戦国時代」という発想は、まさしくその通りです。それだけに、**独自の路線を歩みながら、互いに高め合っていくような戦国時代**となることが大切です。自分も、常々抽象的な言葉の魔法に酔ってしまうことがあります。「具体的に」ということを、心がけていくようにはしています。そんな中で、「連携」とはどういうことか、本当に難しいと思います。「笛ふけど踊らず」は、具体的に何をすればいいのかわからない、ということの表れだと思います。戦国時代、やる気がある教師、やる気がある学校が勝ち残るのが当たり前です。そういう自覚を持たせていきたいと思います。
- ・ 学校5日制になり、「先生は2日休みがあつていいなあ」とやはり言われます。私自身は、今まで以上に仕事が多くなり、土日ほとんど出勤しています。他の多くの先生も来ています。特に、中3担任は休みなしです。そんな状況を、地域の人がかかっていることが多いです。一方で、深谷先生の話聞いて、自分が無駄な時間を過ごしているかもしれないなど、ヒントを得たように感じました。これから「**仕事日記**」でもつけようと考えています。授業論では全く同感でした。
- ・ 今学校で、全教師に「本年度の反省と来年度への提言」をまとめてもらっています。その中で、集中しているのが、「**全員が研究授業をやる**」ことへの批判です。理由には、「必要がない」「自習が多くなり、子どものためにならない」「全員の授業を見るねらいがわからない」などがあります。こんな状況の中で、**授業改革の大切さ**を訴えていかなければならないのが現実です。でも、今日の話は大変参考になりました。本校の職員にどう伝えていくか、私の課題です。
- ・ 今年は、自分自身の授業を変えていきたいと思っています。「**教材をあたためよ!**」「**自分の五感で調べよ!**」という点が勉強になりました。
- ・ 子どもと向き合えていない自分がいます。授業を進めるだけで1日の終わりを迎えています。板書、発問、教材研究...、今のままではだめだということがよく分かりました。幸運にも、自分の周りには「**師**」として、**私を育ててくださる方**が多くいます。今日学ばせていただいたことを子どもたちのために生かしていきたいと思えます。

- ・ 「平成教育維新」の話に心沸き立つ思いがしました。深谷先生が佐久間象山か吉田松陰に思えてきました。自分が高杉晋作や久坂玄瑞になれるかどうかは、「この時代に教師ができること、やりがい」をどれだけ認識できるかだと思います。
- ・ 「クリエイティブ」という言葉が印象的です。これからの学校教育は創造的でなければならない、自分自身も学校も、今までの流れではなく、現状に合わせて考えていかなければならないと強く思いました。
- ・ 講師の立場で、5年前（18年ぶり）に学校に行ったときには、「先生方は、なんて無愛想なんだろう」と思いました。でも、先日「何でそんな言い方をするの？」と自分の娘に言われてしまい、すっかりぶっきらぼうな教師に染まっていたようです。自分のビデオ撮りを、ぜひやってみたいです。
- ・ 創造力を子供たちに養いたいならば、まずは自分自身の創造力をとしました。学校という社会で過ごしていて、とても視野が狭くなっているところがあるはず。さまざまな人とかかわりを多く持ち、広い視野を持ちたいものです。
- ・ 「自分の姿を鏡にうつせ!」、四六のがまになりそうですが、やってみます。
- ・ 以前、特殊学級の授業を参観したとき、その指導案には「一人の子どものために」という明確なめあてがあり、ある意味、他の子どもは見えないような、覚悟を決めたものでした。

お話の中に「だれのために授業をしているのか?」「指導案に子どもを入れる」とありました。「全体のことを考えているなどと言いつつ、結局一人も子どもを育てていないのではないか」とも。「だれに、どんな力を付けたいのか」をあらためて考えながら、指導を進めていきたいと思います。
- ・ 研修で、4年生の総合的な学習の時間での発表場面を参観しました。どのグループも「聞いている人が分かりやすいように」、「お客さんがたくさん来てくれるには…」などと工夫していました。その後の協議会の中で、「教師もしっかり勉強しないといけない」と教えられました。「教師も同じように追求しようよ」という今日の話と同じだと思います。
- ・ 「学校は、内側からしか変わらない」ということが、よく分かりました。「教師は外からの変化に対応しきれていない」とも感じました。
- ・ 教員の見方にとらわれず、一市民としての感性を持つようにという点、実感を持って聞きました。現在の日本の厳しい状況をほとんど気にすることなく、学校の中で変化のない毎日を過ごしているようです。刺激になりました。
- ・ 教員1年目で、少し難しく感じましたが、常に自分を高めていく努力をしていかなければと思いました。
- ・ 私の学校は、地域とともに生きています。学校の敷地内のゴミを毎朝拾っています。フェンス越しに近所の人とあいさつをしています。一步踏み出て、面と向かってあいさつをするようにします。
- ・ 東海市での授業実践や深谷先生の具体的な実践例を、ビデオや話などで紹介してほしい。